

和歌山県和歌山市

加太・磯の浦エリアにおける

観光映像を活用した地域振興



【活動の基本情報】

参加学生数：9名

(1年生：5名、3年生：4名)

活動期間：2021年5月～2024年1月

担当教員：木川剛志

1. 活動実施の経緯

加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興として3年目の事業である。よって最終年度となる。当初は和歌山市とその提携先の南海電気鉄道株式会社との共同の事業であったが、当初の担当者はすべていなくなり、南海電鉄への出向者もいなくなったので、すべてが白紙の状態となっていた。当初求められたことは、加太・磯の浦エリアにおける様々なイベント事業に参加し、それに関連する映像や画像をInstagramなどに投稿することが求められてきた。ただ、1年目からもそうであるが、民間企業としてCOVID-19の影響下でイベントの開催は困難であり、イベント事業への参加を中心とした本プロジェクトは社会情勢に大きく影響されてきた。結果、その枠組みの修正を行うには、カウンターパートとの関係性が十分に構築されず、また学生側のコミュニケーションも十分ではなかった。

2. 活動の内容

このLPPの趣旨が南海電鉄と和歌山市が開催するイベントへ学生たちが参加するというフレームであったため、そのイベントの再開がほぼない状況であったため、活動はなかった。そのため、年度末に和歌山市とのミーティングを行い、その結果として1月にリアルの撮影をするとのことだった。

3. 活動を通じて

最終的には厳しい活動内容となった。ほぼ成果がない状態であり、やはり春の時期の活動の立ち上げの時に、意識を共有して課題に向けた解決について語り合わない、その後、参加の打診があっても多くが参加しないという事態となった。

4. 成果ポスター

加太・磯ノ浦LPP

昨年度の課題認識

メンバーの加太への印象が活動において重要な要素？
計画の更なる具体化と連携強化
能動的/積極的な活動への参加と取り組み

3年目を終えて…

3年という長いスパンでの継続した活動は非常に難しかった

そのわけは???

- ・メンバー個人のスケジュールの激化
⇒モチベの継続が難しい
- ・LPP活動に対する**優先順位**の低下
- ・行政側との連携不足
- ・行政/LPP内含め、人の異動が激しい

【地域との関わり方に関して】

地域の特徴

- ・加太線沿線はほぼ住宅街
 - ・落ち着いた/のんびりとした雰囲気の温泉街
- ⇕
- ・友が島は近年注目が高まる

映像で仕事している・写真が趣味
実務的な面で頼りになる・沿線住みなど
※メンバー個人の
スキル/ポテンシャルは高いのに...

大きな疑問

- ・加太が認知されることを地域は望んでいるのか？
- ・自分たちの活動は自己満足の延長線上にあるのでは？

仮に行政と連携したとして...

一方的な観光振興になった可能性大

協働が重要なポイント

⇒必要とされていたか
ここを意識していたか？

「加太の中でも観光需要が異なる」

【今後に関して】

本年度でLPP活動終了

得た学びなど...

- ・学生の地域との関わり方
- ・行政の事業に対する関心度合い
- ・地域から必要とされているか

行政・事業者・学生の3者の連携が結果



LPPのこれから

- ・LPP受入側との歩幅合わせ
 - ・中心メンバーがどれだけ優先できるか
- ⇒継続性と関係の構築度が非常に重要

2023 年度 LPP 合同活動報告会 実施報告

和歌山県和歌山市

テーマ：加太・磯ノ浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興

報告に関して

私たちの LPP は 3 年目の最終年であったにも拘らず、何ら成果物を残すようなことは出来なかった。特にこの合同報告会においては、LPP の活動の難しさについて問題提起をした発表を中心に行った。要因は発表中にも述べたように、行政・企業・学生の連携不足と相互間のモチベーション低下・他事業/他のプロジェクト等による学生の優先度の低下など様々である。その中で、私が唱えたことは「受け入れる側の主体性・地域の主体性」の重要性に関してだ。私たちのような外部の人間が、行政・企業と手を組み何か地域に影響を齎すことは、住民自治機能の低下を招く要因になりかねない。住民ありきのまちづくり・観光地づくりにおいて、住民の存在を考慮しないことは非常に危機感を抱くべきであると考え。多くの LPP が行政連携による活性化を行うが、その姿勢に対して一度踏みとどまって考えることの重要性を提起する発表づくりを意識した。

コメントシートの意見への回答

Q:地域の声を聴くような仕組みづくり・総合的判断をすべきではなかったのか

— LPP の趣旨は「地域との継続的関わりによる活性化づくり」であると理解している。総合的判断に基づく LPP の方向性の転換等も視野に入れて活動すべきであるとの助言を頂いたが、一部営利企業との関係性を深めることは、間接的な地域活性に繋がるかもしれないが、総合的に見た際に「地域住民」の存在が浮き出ている状態となり、「地域の中心」を無視した状況に値するのではないだろうか。助言いただいた内容は、1 つの手段であるが直接的な地域との関係づくりに大きく影響を齎すかは不明である。

もちろん、私たちは活動において成果が乏しいため理想論に過ぎない。助言を頂けることに感謝申し上げるが、関係者の皆様含め LPP 活動に携わる皆様が「相互の目標」を共有し「共通目的」を設定することで、よりよい LPP 活動が出来ると考える。皆様には是非、「立ち止まって考える事」をして頂きたいと思う。

Q：連携の意味を考えるべきではないか

— 「連携＝学生の出来る範疇を超えられる」というのは、その通りであると認識している。しかしながら、頼る・頼られるの関係性は継続的に関わることで出来る「信頼関係」の賜物であり、学生と受入団体の双方の積極的な関与・姿勢が重要であると理解している。私どもとしても、非常に不甲斐ない結果に終わり、反省しているところである。今後も活動される学生・関係者の皆様は、良好且つ積極的な関係構築に努めて頂きたいと考える。